



第 3 次今治市総合計画基本構想 (素案)

市長挨拶

市長写真

このたび、令和 8 年度から令和 18 年度までの 10 年間を計画期間とする「第 3 次今治市総合計画」を策定いたしました。

合併から 20 年、XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

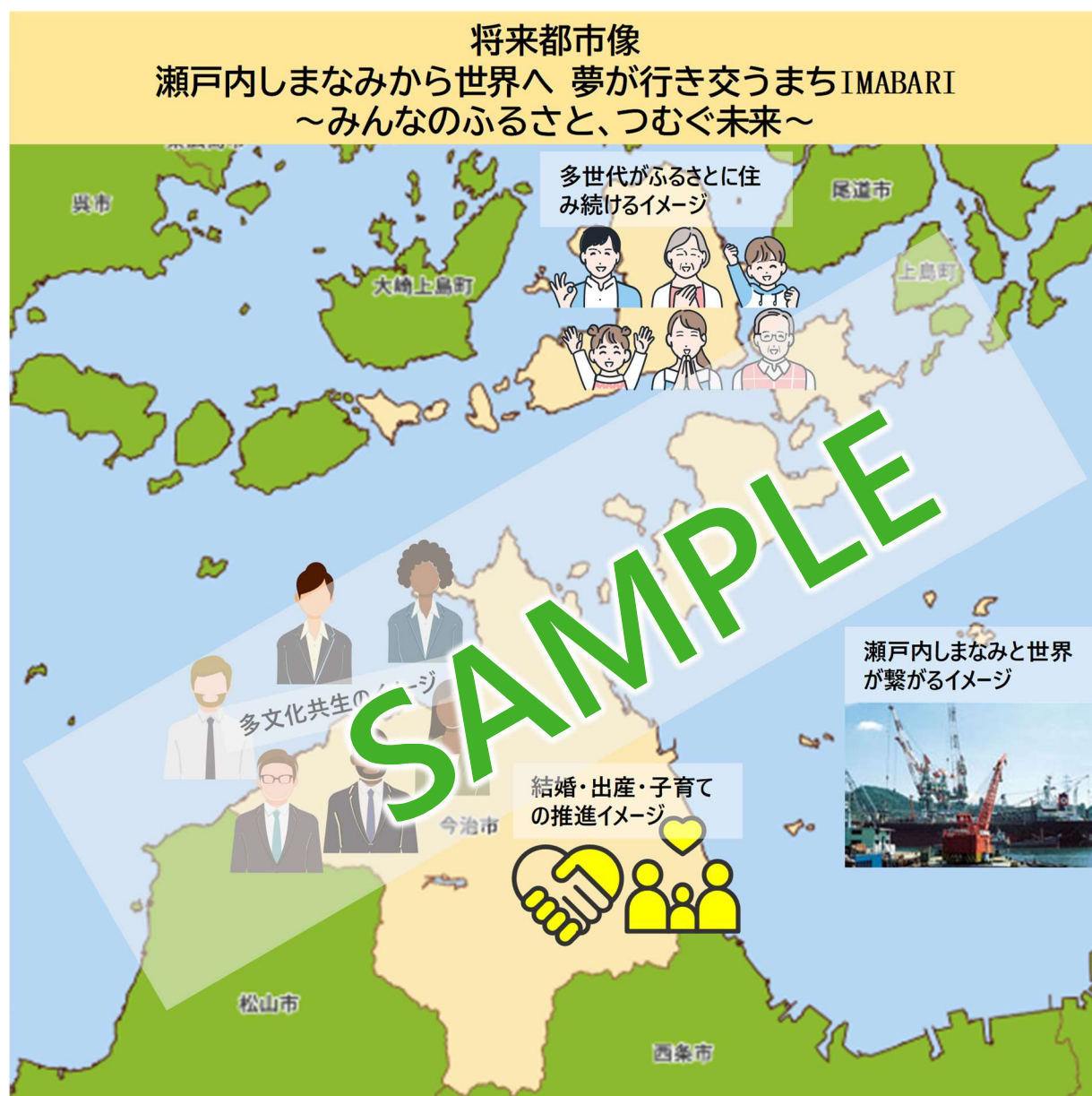
- こちらで徳永市長の市長挨拶を挿入します

目次

10 年後の今治の姿	1
第 1 章 総合計画の策定にあたって	3
I 総合計画策定の趣旨	3
II 総合計画策定の位置づけ	3
III 計画の期間と構成	4
第 2 章 総合計画策定の背景	5
I 今治市の歩み	5
1 第 1 次総合計画期間（平成 18 年～平成 27 年）	5
2 第 2 次総合計画期間（平成 28 年～令和 7 年）	5
II 今治市の特徴	6
1 今治市の地理条件	6
2 独自色豊かな産業	6
3 豊富な自然環境	6
4 魅力ある今治ブランド	7
III 今治市をとりまく時代潮流	7
1 人口の変化	7
2 物価高騰	7
3 カーボンニュートラルへの機運の高まり	7
4 防災対策の機運の高まり	8
5 デジタル技術の活用による地方創生	8
6 ウェルビーイング（Well-being）の重要性の高まり	8
7 外国人動向	9
第 3 章 今治市の目指す姿	10
I 将来都市像	10
II 将来都市像に込めた想い	10
1 世界に誇れるまちを目指す	10
2 人の夢を育み、応援する	10
3 みんなのふるさとをつくる	10
III まちづくりの施策大綱	11
施策大綱 1 夢やふるさとへの誇りを持ち、市民が主役でつくるまち	11
施策大綱 2 魅力にあふれ、住み続けたい、帰ってきたいと思えるまちづくり	11
施策大綱 3 世界に誇れる強みや魅力を醸成し発信するまちづくり	11
施策大綱 4 安全・安心で快適に暮らせるまちづくり	11
第 4 章 施策体系	12

10 年後の今治の姿

- 今治市の将来都市像を大きく示す
- 今治市の 10 年後のまちのイラストを見開きで大きく示し、目指す将来の姿（基本目標）と連動しながら、10 年後にまちがどのようになり、市民がどんな生活を送っているかのイメージが伝わるようにする



見開き図

第1章 総合計画の策定にあたって

I 総合計画策定の趣旨

今治市は平成17年1月16日に、12市町村の大合併により現在の形となり、令和6年度に合併20周年を迎えたところです。

今治市は合併後、平成18年に合併後初の第1次総合計画を策定し、『ゆとり彩りものづくり みんなで奏でる 海響都市 いまばり』を将来像として掲げてまちづくりを進め、平成28年には、第2次総合計画を策定し、『ずっと住み続けたい“ここちいい（心地好い）”まち いまばり あの橋を渡って 世界へ 未来へ』を将来像として掲げ、世界に誇れる魅力的なまちづくりを進めてきました。

この合併後20年の間で、しまなみ海道の全線開通、西日本初の海事展「BARI-SHIP（バリシップ）」の開催、今治タオルのブランド化、今治新都市の開発、今治あきない商社の設立、サイクリングやFC今治を中心としたスポーツ振興など、着実に地域の魅力向上の歩みを続けてきました。

一方で、止まらない人口減少・少子高齢化、世界情勢の変化に伴う物価上昇、急速に発展するデジタル技術、環境配慮や防災意識の高まりなど、今治市を取り巻く環境は日々変化しており、これまでの20年間から継続して直面している課題のみでなく、新たな課題も浮き彫りとなっています。

総合計画は、市の大きな方向性を定めるまちづくりの羅針盤です。今治市の良さを引き継ぎながら、変化していく時代に適合した新たな今治市を市民の皆様とともに作り上げていくために、第3次総合計画を策定します。

II 総合計画策定の位置づけ

総合計画は、子育て、教育、産業、まちづくりといった地方公共団体が行う施策すべてを網羅し、市全体の方向性を定める最上位計画と位置付けます。本計画で定めた目標や方向性を前提として、各施策分野の個別計画において具体的な取組みや方向性等を明確にします。

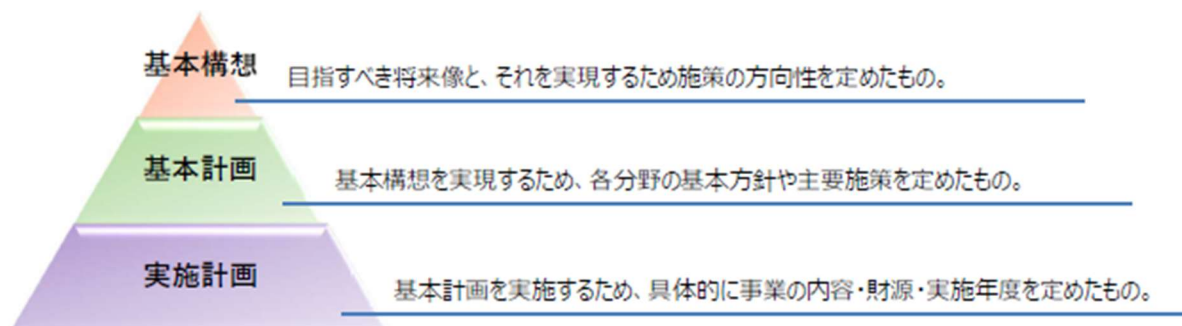
III 計画の期間と構成

第3次今治市総合計画は、「基本構想」「基本計画」「実施計画」の3段階で構成されます。

基本構想では、今治市の特性や今治市を取り巻く社会潮流などを整理したうえで、令和17年度までの10年間で目指すべき将来都市像と、その実現に向けたまちづくりの基本目標を定めます。

基本計画では、まちづくりの基本目標を達成するための分野ごとの施策の進め方や、具体的な施策の取組方針、達成目標を定めます。基本計画は、時代の変化に見合った形とするために、令和12年度までの前期基本計画と、令和17年度までの後期基本計画の各5年間の構成とします。

実施計画は、基本計画で示した施策の進め方に従い実施する具体的な事務事業を定めます。実施計画は、3年間を計画期間としつつ、個別の事務事業の進捗状況や予算状況等を鑑みながら見直しを行います。



第2章 総合計画策定の背景

I 今治市の歩み

1 第1次総合計画期間（平成18年度～平成27年度）

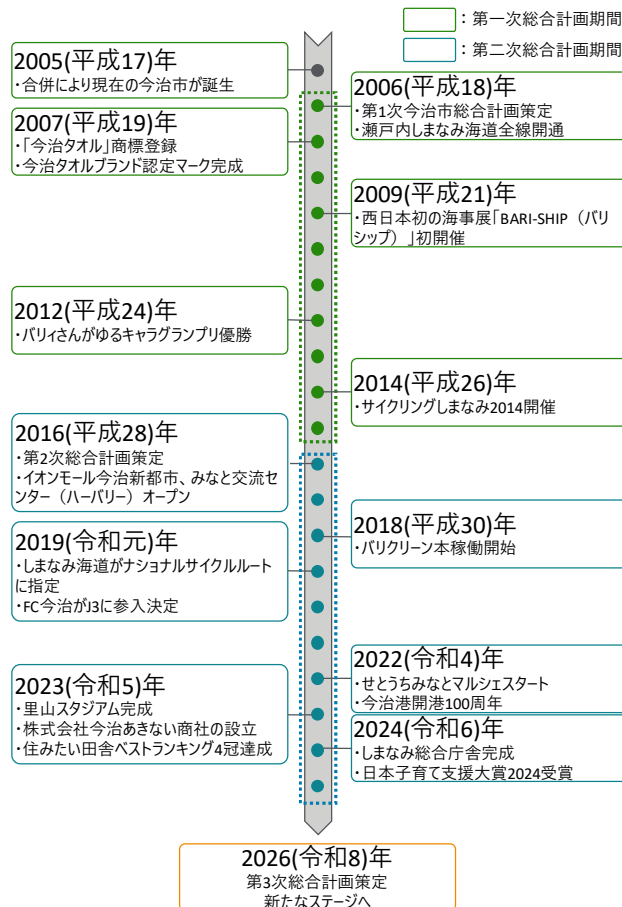
今治市は、平成17年の12市町村の合併により現在の市域を形成しました。

その翌年となる平成18年に今治市と広島県尾道市をつなぐ瀬戸内しまなみ海道が全線開通し、同年12月に第1次総合計画を策定しました。また平成21年には、西日本初の海事展となったBARI-SHIP（バリシップ）や、瀬戸内しまなみ海道開通から8年後となる平成26年には、しまなみ海道を自転車で走るサイクリングしまなみ2014など、瀬戸内海のへそに位置する立地条件を生かし、様々な大規模イベントを開催し、市を発展させてきました。

2 第2次総合計画期間（平成28年度～令和7年度）

平成28年度に第2次総合計画を策定して以降は、平成28年にイオンモール今治新都市、みなと交流センター（ハーバリー）のオープン、平成30年にバリクリーンが本稼働を開始、令和5年には、FC今治の本拠地となる里山スタジアムが完成するなど、着実に市の賑わい創出に向けた都市機能の拡充を進めてきました。

また、令和4年度にはせとうちみなどマルシェの初開催、令和6年には株式会社今治あきない商社が設立されるなど、市の産業の活性化にも努めてきました。



II 今治市の特徴

1 今治市の地理条件

今治市は、大きく「旧今治市」、「旧越智郡陸地部」、「旧越智郡島しょ部」の3つの地域に区分されます。旧今治市は、市の中心として多様な機能を集積した賑わいの拠点となる地域、旧越智郡陸地部は、豊かな自然に囲まれ、住みやすい地域、旧越智郡島しょ部は、しまなみの豊かな景観を有し、サイクリングなど観光資源豊富な魅力ある地域です。

エリアマップ挿入

2 独自色豊かな産業

今治市は、瀬戸内海に面している地理特性もあり、瀬戸内の海上交通の要衝として古くから造船業・海運業に強みを持つ地域として発展してきました。またタオル産業も活発であり、特に平成19年に今治タオルブランド認定マークが完成して以降、「今治タオル」は国内外に広く知られるブランドとなっています。

造船や海運、タオル産業以外にも、石油・ガスなどのエネルギー産業や食品産業においては、全国的な競争力を持つ大手企業も所在しています。さらに、美しい瀬戸内海や里山などの自然環境を生かした農林水産業も盛んであり、農作物や豊富な魚介類を生かした「食と農のまちづくり」にも取り組んでいます。



3 豊かな自然環境

今治市では、東洋のエーゲ海ともいわれる瀬戸内海が多島美を始めとした豊富な自然景観があります。これらの自然景観を眺望できる瀬戸内しまなみ海道は、「サイクリストの聖地」として、国内のみならず海外からも多くの観光客・サイクリング客が訪れる、今治市のシンボリックな観光資源です。



山村観光エリアとして市内外から多くの観光客が訪れる玉川の山間地域では、来島海峡・燧灘・斎灘が一望できるだけでなく、「美人の湯」として語られる「鈍川温泉」や美しい紅葉が眺められる「鈍川溪谷」など海だけでなく山の自然景観も豊富です。

4 魅力ある今治ブランド

日本有数の海事都市、今治タオルブランド、サイクリストの聖地しまなみ海道を生かしたサイクルシティなど、今治独自の魅力を生かした今治市のブランディングに取り組んでいます。

これらの今治ブランドを起点に、2024年には、一般社団法人日本子育て支援協会が選ぶ「第5回日本子育て支援大賞 2024（自治体部門）」を県内初受賞しました。また、「住みたい田舎ベストランキング」（人口10万人以上20万人未満のまちランキング）においても、総合部門、子育て世代部門、若者世代・単身者部門、シニア世代部門の全4部門で2023年から3年連続1位を獲得するなど、さらに人気を博す市となってきています。

III 今治市をとりまく時代潮流

1 人口の変化

わが国の総人口は、平成20（2008）年をピークに減少局面に入っており、令和5（2023）年時点で約1億2,435万人と、平成20（2008）年時点から約2.9%減少しており、今後も減少を続ける見込みとなっています。

今治市においても、合併以後継続して人口減少・少子高齢化が進んでおり、地域産業の働き手不足や需要の衰退のほか、医療、介護、教育など様々な分野における人材不足が課題となっています。また、市域の広い今治市においては、人口減少に伴い地域住民の生活を支える店舗や交通手段の維持も課題となっています。

2 物価高騰

わが国の消費者物価は、新型コロナウイルスの流行やロシアによるウクライナ侵攻などの影響により、2021年以降大幅に高騰しています。こういった物価高騰は、市民の日常生活に大きな影響を与え、生活困窮や消費の抑制などにつながっているほか、建設コストの高騰など、地方公共団体における公共事業においても大きな影響を与えています。特に市域の広い今治市においては、地域の生活を支えるためのインフラや公共施設の老朽化対策に多くの費用を要することが予想され、今後の財政の圧迫が懸念されます。

3 カーボンニュートラルへの機運の高まり

国においては、令和2（2020）年10月、「2050年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、すなわち2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」ことを宣言し、令和3（2021）年10月には、地球温暖化対策計画を閣議決定し、令和12（2030）年度において

温室効果ガスを 46%削減、令和 32（2050）年にカーボンニュートラルを達成することを正式に目標として掲げました。

今治市においては、令和 5（2023）年 11 月に、「今治市ゼロカーボンシティ宣言」を行い、2050 年までの CO2 排出量実質ゼロを目指した取り組みを行っています。

4 防災対策の機運の高まり

令和 6（2024）年 1 月の能登半島地震をはじめとした地震・津波や、台風・豪雨、土砂災害など、自然災害によるリスクが多く発生しています。また、科学的に想定される最大クラスの南海トラフ地震への対策として、防災対策への機運は年々高まっています。

今治市は、多様な自然に恵まれた立地である一方で、臨海部での津波被害リスクや山間部での土砂災害リスクを抱えています。また、令和 7（2025）年 3 月には、過去最大規模の林野火災が発生し、多くの方に対し避難指示が出される事態となりました。人口減少が進む中、地域の防災意識の向上やまちの防災拠点の整備など、最悪の事態を考慮した防災対策が求められています。

5 デジタル技術の活用による地方創生

近年、AIをはじめとするデジタル技術が日々発展を遂げており、社会を取り巻くデジタル技術は目まぐるしく変化しています。国においては、令和 3（2021）年に、デジタル社会をけん引し、未来志向の DX を推進する組織としてデジタル庁が発足したほか、令和 4（2022）年 12 月には、「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を策定（令和 5（2023）年 12 月改定）し、デジタル技術の活用による地方の社会課題の解決、魅力向上のブレイクスルーの実現を図っています。

地方においても、働き手の不足や過疎地域への行政サービスの提供など、人口減少による様々な課題に対する対応としてのデジタルトランスフォーメーション（DX）の推進が求められています。今後、ますますの発展が見込まれるデジタル技術を柔軟に取り入れ、社会課題の解決、地方の魅力向上に努めていくことが重要です。

6 ウェルビーイング（Well-being）の重要性の高まり

ウェルビーイング（Well-being）は、「身体的・精神的・社会的に良好な状態にあること」を意味する言葉であり、一人ひとりが、身体的に健康であるだけでなく、様々な人や社会とのつながりの中で心豊かに幸福を実感できることを表す概念です。人々の価値観の変容により、経済的な豊かさを示す GDP だけでは計測できない個人の主観的な豊かさに注目が集まり、近年、重要な価値基準となりつつあります。

地方公共団体においても住民のウェルビーイングを高める取組の重要性が増しており、さまざまな施策分野においてウェルビーイングの概念が導入され始めています。

7 外国人動向

外国人労働者の人口は全国的に増加傾向であり、令和 6（2024）年 10 月末時点において、全国の外国人労働者数は約 230 万人と過去最多を記録しています。また、コロナ禍以降、円安情勢も相まって、急激にインバウンド需要が増加しています。

今治市では、造船・海運業や繊維業などの製造業に強みがあるため、それらの業務に従事する外国人労働者が比較的多いことから、近隣の自治体に比べて外国人人口が多い傾向にあります。また、しまなみ海道を起点に観光業に力を入れている今治市においては、外国人観光客の誘客は非常に重要となっています。今治市においては、人材確保、観光誘客の両面の観点から、今後ますます外国人にとって魅力あるまちづくりを追求していく必要があります。

第3章 今治市の目指す姿

I 将来都市像

今治市では、計画期間末の令和 17（2035）年度末にありたいと考えるまちの姿として、下記将来都市像を描きます。

この将来像の達成に向けて、施策大綱やこれに紐づく重点施策等を定めます。

将来都市像
瀬戸内しまなみから世界へ 夢が行き交うまち
IMABARI ～みんなのふるさと、つむぐ未来～

II 将来都市像に込めた想い

1 世界に誇れるまちを目指す

海事産業や今治タオル、サイクルシティなど今治市が持つ多くの魅力を最大限生かした世界に誇れるまち、多くの方が共生していくまちとして、国際都市「IMABARI」を目指すという想いを込めています。

2 人の夢を育み、応援する

今治市から生まれる夢を育み、まち全体の活気を生み出していくまちを目指したいという想いを込めています。今治市から生まれた夢を市外や世界に発信してだけでなく、今治市に夢を求めて訪れる、帰ってくる場所になることを目指しています。

3 みんなのふるさとをつくる

今治市に住んでいる人、今治市に関わりのある人すべてが今治市のことを好きになり、住み続けたい、帰ってきたいと思えるようなまちを目指したいという想いを込めています。また、今治市を好きな人たちの想いをつむぎ、この 10 年間で次世代につないでいくという想いを込めています。

III まちづくりの施策大綱

将来都市像の実現に向け、今治市が進めていく施策を以下の4つの大綱に整理しました。

施策大綱1 夢やふるさとへの誇りを持ち、市民が主役でつくるまち

今治に住んでいる市民が今治のことを好きになり、今治発の夢や今治への希望、今治への誇りをもっていきいきと暮らせるまちを目指します。今治市の将来を担う子どもの豊かな心を育むための教育や出産や子育ての希望を叶えるための子育て支援を充実させながら、若者から高齢者まですべての市民が健康で文化的な生活を送れるよう、「人」や「つながり」を重視し、市民が主役でまちづくりを進めるための土台を整備します。

施策大綱2 魅力にあふれ、住み続けたい、帰ってきたいと思えるまちづくり

多くの方が住み続けたい、帰ってきたいと思えるよう、市民生活の基盤を整え、市民全員が支えあうまちを目指します。地域の福祉体制の整備や医療体制・社会保障の推進により、誰もが健康的で生き生きと暮らせる魅力あるまちづくりを進めていきます。また、魅力あるまちを目指すために、環境配慮や市の行財政改革の取り組みなど、まちづくりの土台作りを進めていきます。

施策大綱3 世界に誇れる強みや魅力を醸成し発信するまちづくり

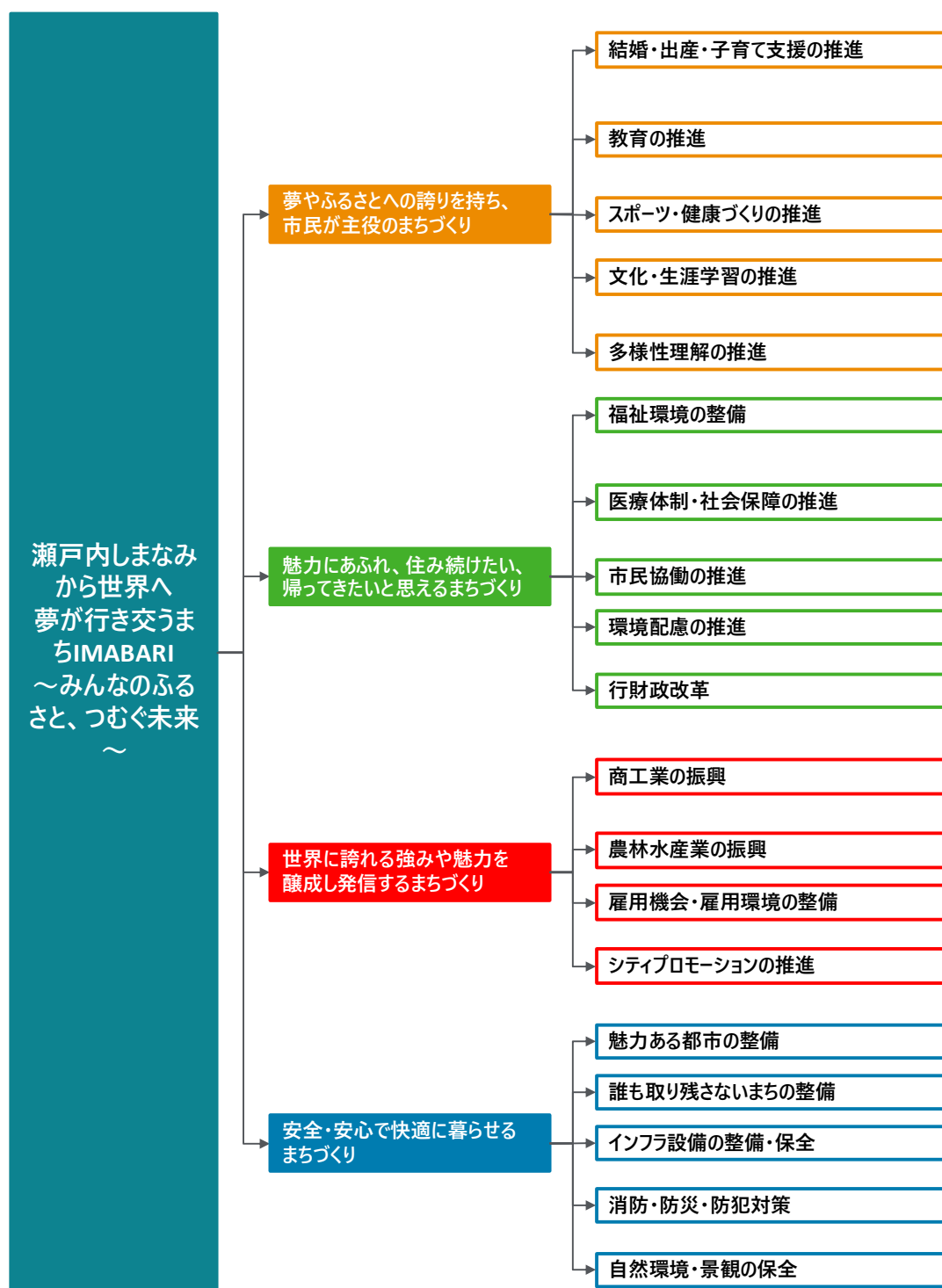
今治市の豊富な産業や観光資源、今治ブランドを発信し、市外の方からも選ばれるまちを目指します。今治市の地場産業である海事産業や繊維業をはじめ、サイクリングや豊かな自然景観、豊富な農産物、海産物や食文化を生かした観光業などにより、関係人口の増加を目指します。また、今治から新たな強みを創造するためのイノベーション創出やスタートアップ支援にも取り組み、世界に通用する今治市を目指します。

施策大綱4 安全・安心で快適に暮らせるまちづくり

災害などの不安や日常生活の不便を感じず、誰もが快適に暮らせるまちを目指します。市民が快適な生活を送ることができるよう、中心市街地の活性化やまちの緑の整備、今治市が誇る自然景観の保全等を進めていきます。また、島しょ部や山間部にお住まいの方々を取り残さない交通機関の整備や、来る大災害に備えてまちの防災力の強化等を進めていきます。

第4章 施策体系

本計画においては、今治市の将来都市像を実現するために第3章の通り4つの施策大綱を定め、それらを達成するための基本目標や施策を示しており、体系図として整理すると、下図のとおりとなります。今後、本市を取り巻く社会情勢が変化し、市民ニーズが複雑化・多様化していく中でも、持続可能な行財政運営を基礎としつつ、将来像を実現するために、市民一人ひとりのウェルビーイングが高まるような取組を推進していきます。



→	① 今治の未来を育む、子育て世帯への切れ目ない支援 ③ 安心して子どもを預けられる就学前教育・保育施設の充実	② 地域の輪を大切に安心して子育てできる環境づくり
→	① 今治の未来となる子どものための教育環境の充実 ③ 今治の子どもを守るための青少年の健全育成	② 今治への誇りを育む特色ある教育の推進
→	① 今治をわくわくさせるスポーツ振興	② サイクルシティの推進
→	① 今治の歴史ある文化芸術の振興 ③ 誰もが楽しめる生涯学習の推進	② 今治の歴史を守るための祭りや伝統文化の保全
→	① 男女共同参画・人権啓発～誰もがいきいきとできる社会へ～	② 今治と世界を繋ぐ、国際理解・多文化共生
→	① 今治の輪を強める、福祉体制の整備 ③ 誰もが健康で元気に暮らせる健康づくり	② 高齢者への支援～誰もが住みやすいまちへ～ ④ 誰も取り残されないまちとして、様々な困難を抱える人への支援
→	① 医療体制の維持・確保 ③ 誰もが活躍できる社会となるために、社会保障と自立支援	② 各種保険制度の適切な運用
→	① 今治を一つにする地域コミュニティの活性化	② 多様な主体による誰もが主役になれるまちづくり
→	① ゼロカーボンシティの実現	② ごみの適正な処理～きれいなまち今治～
→	① 効率的なサービス提供・情報発信 ③ 健全な行政運営	② 組織・人づくり
→	① 世界とつながる海事都市今治の発展 ③ 今治の未来を創る新たな産業の創出	② 今治の伝統を守る地場産業の振興
→	① 今治の食を育てる、農林業の振興	② 今治の食を守る、水産業の振興
→	① 誰もが活躍できる雇用機会の充実	② 誰もが快適に働ける雇用環境の整備
→	① 今治の魅力を広げる観光の振興 ③ 移住・定住の推進～ようこそ今治～	② 魅力あふれる今治ブランドの発信
→	① にぎわいあふれる魅力ある市街地の整備	② 土地利用計画の推進
→	① 公共交通網の整備	② 住環境の整備・空き家対策
→	① 上水道・下水道の整備	② 道路・橋梁の整備
→	① 消防体制の充実 ③ 防犯・消費者保護	② 防災力の向上
→	① 美しいまち今治の公園や緑の整備	② 豊かな自然景観や生態系の保全